

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	こぼんはうすさくら横浜鶴見教室		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準人員配置の徹底、活動スペースの広さ	マンツーマン要員の配置には、特定職員に限らず担当を前日に決めている。それにより、支援の方向性や課題を話し合う人数が増え、カンファレンスの時間を作ることができた。お子さまの様々な発信を、見逃さず受容することに意識した配置を行い、職員の立ち位置や現場での動きやすさを重視した導線を確認している。	マンツーマン要員を配置することに限りがあり、難しさが生じる曜日もある。支援の方向性を見直す際は、マンツーマン要員になっている部分の改善を図り、少しでもできることを増やしていけるようにする。スペースの広さから、活動中、行動が高揚してしまうことが多いため、一斉指示の声掛けは常に慎重に行うことに意識していく。
2	構造化を用いたお教室づくり	導線上に物が散乱しないよう、コーナーに分かれて玩具を出す際は、色別に分かれたブースを作る。課題を行う机と、遊び場の机の色を変えることで、課題を行う際に遊びの延長とならないよう気持ちを切り替えている。個室の部屋がなくても、分かりやすく活動できるよう工夫している。	自分のものの管理を行うために、様々な場所に名前とマークを提示しているが、視覚から情報を示すには少し小さいため、大きく提示したい。本日のスケジュール表に、時間的構造化を用いた時計のマークを提示したい。
3	集団プログラムの多様化、充実した内容	5領域に合わせた取り組みを行う中で、子どもたちの出来た達成感が感じられるよう配慮している。年齢や特性、その他、発達のレベルに合わせ、出来ることを出来る範囲で全員参加のプログラム構成となっている。	何度も繰り返し行っているプログラムに関しては、前回と同じ内容ではなく、少しでも変化を付けていきたい。発達の基盤となる感覚に関しては、1年スパンで毎月行える取り組みを開始し、今年度はすずらんテープを使った試みを行った。年度の終わりには、養った感覚で思い出となる制作物を作りたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個室の部屋がない、一軒家のため、バリアフリー化が難しい	気持ちが崩れてしまった際に、安心して表出する場やコントロールを促す場所がないため、集団の中で支援するしかなく、丁寧な対応が難しい。また、子どもたちの視覚に、どうしても階段が見えてしまうので、マットで入り口を抑えるしかできていない。入り口に段がありフラットになっていないため、危険がある。	気持ちの切り替えや感情のコントロールを行う場所がなく、パーティションで視覚を遮るしかできていない。今後は、クールダウンスペースとして、安心して過ごせる空間を設けたい。入り口の段には、下駄箱の横に踏み台を作成。使いやすさや危険性がないか使用しながら検討中。
2	トイレが狭い、介助スペースがない、水道が一つしかない	トイレのスペースが狭く、トイレ介助が必要な場合にも職員が一緒に入ることによる窮屈さがある。また、おむつ替えや順番を並ぶ位置がなく水道も一つしかないため、時間が掛かってしまう。	順番を並ぶ位置が狭いため、多くの人数を呼ぶことが出来ず、また多く並んでしまうとトラブルも多かった。並ぶ場所の足跡マークには、カラフルな色を付けたり、壁には国旗やマークの写真、平仮名表などを付ける工夫を行う。
3	保護者会の開催ができていない	保護者会のニーズがあまりないことで、野放しにしてきた。ペアレントトレーニングを求めているご家庭があることも事実、事例を用いた勉強会や、保護者同士の意見交換の場は設けたいと感じている	年に一回、教室開放を行うお祭りを開催している。去年で三回目となるが、根強い人気があり賑わいを見せていることから、こういった取り組みを増やしていければと感じる。定期的に行うことで、時間や人数に制限はせず、教室単位での開放も視野に入れていきたい。

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	こぼんはうすさくら横浜鶴見教室		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたち主催の教室、考える力や自主性を高める活動	子どもたちには、その日ごとに担当があり、会の日直や挨拶の司会、お手伝いとしての役割を与えている。教室内では、自由に行動して良いわけではなく、自分で考えて行動すること、指示を聞き入れることが重要ではなく、指示に従ってどのように行動するかを意識を持っている。	見る力、聞く力、考える力を養い、自主性を高めていく。社会性を育てるため、必要に応じて話し合いの場を作っていく。誰かに相談することや、素直に人を頼ることが難しくなってくる年齢が多く、自我やこだわりもある。隔週でキーパーソンとなる児童を決め、悩みや抱えている問題点に気付くことも重要と感じている。
2	クラブ活動の導入、選択制による活動の活性化	子どもたちの好きなことに特化した構成で、学校などの機関にあるクラブ活動を導入。料理クラブ、工作クラブ、手芸クラブ、卓球クラブなど。土日祝日や学校が早く終わった時、長期休暇期間がメインとなっているが、集団プログラムとは別に取り組んでいる。	自分で活動の選択ができることで、振り返りもきちんとして行っている。当初は、ストレンスを伸ばすことを重視していたが、今は新しい趣味や好きなことを見つけれられている。今後は、実験クラブや鉄道クラブ、写真クラブなどを検討している。
3	集団プログラムの多様化、充実した内容	5領域に合わせた取り組みを行う中で、子どもたちの出来た達成感が感じられるよう配慮している。年齢や特性、その他、発達レベルに合わせ、出来ることを出来る範囲で全員参加のプログラム構成となっている。	何度も繰り返し行っているプログラムに関しては、前回と同じ内容ではなく、少しでも変化を付けていきたい。三年ほど前から、あえて子どもたちの苦手な部分に踏み込んだ、季節の野菜を使った食育を毎月行っている。どんなことにも苦手意識を持たず、挑戦する気持ちに繋げていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運営時間が17:00までのため、児童のお預かり時間が限られている	保護者の就労やレスパイトに合わせると、特に高学年のご利用が難しいご家庭があり、通所曜日が限られてしまう。そのため、土日などの利用が多く、シフト調整や人員配置に困難が出てくる。	こぼんのご利用が終わった後でも、保護者の就労が終わるまでの短時間でも預かってくれる学童クラブを探したり、一人留守番など、自立に向けた支援を行う。また、土日に特化した学生バイトの職員を募集したところ、今後福祉関係を目指している大学生や、教員志望などが入職している。
2	男性職員の不足、高学年男子に対するトイレ介助問題	女性職員が多いため、男子のおむつ介助が必要な児童の保護者には、事前に同意をいただいく。急な要員が必要な際は不便が生じる。また、体も大きくなっている高学年児童には、力負けすることも多く、職員のケガもあった。	今後は男性職員の入職も視野に入れていくが、お出かけの引率などでトイレ問題が生じた際は、弊社の他事業所からヘルプ要請するなどの対応を取っていく。また、女性職員が男子のおむつ介助をするにあたって、同意以外の他の方法や、記載内容などの確認を行い、いかなる時も困難が生じないよう、体制を整えていく。
3	保護者会の開催ができていない	保護者会のニーズがあまりないことで、野放しにしてきた。ペアレントトレーニングを求めているご家庭があることも事実、事例を用いた勉強会や、保護者同士の意見交換の場は設けたいと感じている	年に一回、教室開放を行うお祭りを開催している。去年で三回目となるが、根強い人気があり賑わいを見せていることから、こういった取り組みを増やしていければと感じる。定期的に行うことで、時間や人数に制限はせず、教室単位での開放も視野に入れていきたい。